

## 子ども 110 番の家とは

子どもが「声かけや痴漢、つきまとい」など、何らかの被害に遭った、または遭いそうになったと助けを求めてきたときにその子どもを保護するとともに、警察、学校、家庭などへ連絡するなどして、地域ぐるみで子どもたちの安全を守っていくボランティア活動です。

## 子ども 110 番の家

子どもたちが、登下校時や、公園・広場等で

**声かけ 痴漢 つきまとい**

等の被害を受けたとき、安心して駆け込める民家、事業所等で、いつもいてくださる皆さんに、子どもたちの安全な保護と同時に110番通報をする等の協力をしていただく「建物」をいいます。

## 子ども 110 番の店

民家とは違い、子どもの登下校時や遊ぶ時間帯に必ず営業しており、常に大人が在所する商店、事業所で、子どもからも見やすく、入りやすいため、緊急の避難場所として協力していただいている「建物」です。

## 子ども 110 番の車

集落から外れ人通りの少ない場所、従来の「子ども110番の家」がない場所を補充し、遊動による緊急避難場所として協力をいただいている「車・バイク」等をいいます。



## ～ 効果 ～

「子ども110番の家」のロードコーンや旗等を設置したり、「子ども110番の車」が地域を巡回することで子どもたちに「地域の人に守られている」という安心感を与えるとともに、犯罪を抑止する効果があります。

## 活動の内容

- 1 犯罪等の被害に遭い、または遭いそうになって救助を求めてきた子ども等の保護
- 2 事件・事故の発生を認知したときの110番通報、学校、家庭への連絡
- 3 日常生活のなかで、近所に子どもたちが被害に遭いそうな危険な箇所等を発見した場合の連絡
- 4 子どもの安全に関するボランティアとの連携
- 5 自治会単位・小学校区単位等での、マニュアルや安全マップの作成



## 活動上の留意事項

- 1 子どものプライバシーを尊重し、秘密を守ってください。駆け込んできた子どもがたとえ顔見知りであっても、その内容を容易に近所の人に話すことのないよう注意してください。
- 2 子どもの立場にたった、思いやりのある対応を心がけてください。
- 3 自分で犯人（不審者）に立ち向かおうなどという無理な活動は、決してしないようにしてください。

## 平素の心構え

### 1 子どもたちとのコミュニケーションを大切に

登下校時など、平素から「子ども110番の家」であることをPRしましょう。  
子どもたちと顔を合わせ、声をかけることによって、子どもと心が通い合うはずですよ。

### 2 旗、ロードコーン等は目立つ位置に

「子ども110番の家」の旗やロードコーンは、玄関先または店頭が目立つ位置に設置しましょう。  
「子ども110番の家」であることを子どもにも知ってもらうことが大切です。

### 3 旗等の位置は子どもの視線に

「子ども110番の家」の旗等の位置は、子どもの視線の高さにあるのが最適です。旗等が物の陰になっていないか、道路から見やすいか等よく点検して、子どもが見やすい位置に設置しましょう。

### 4 玄関まわりの整理整頓を

危険に遭遇した子どもたちは、恐怖感から逃れたい一心で駆け込んできます。玄関先に子どもが駆け込む際、障害となる物や危険な物が放置されていないかよく点検しましょう。

### 5 ペットの飼い方にも一工夫を

子どもたちが危険に遭遇して駆け込もうとしても、玄関先で大型犬などに吠えられたら、犬が苦手な子どもは駆け込むこともできません。  
子どもたちが安心して駆け込めるよう工夫しましょう。

### 6 いつでも対応できるように

いつ子どもが避難してきても対応できるように家族の方、従業員の方にも、この「子ども110番の家」マニュアルを徹底しておきましょう。



### 7 防犯ブザー・ホイッスルの音、叫び声にも対応を

近くで、防犯ブザーの音や叫び声が聞こえた場合も、子どもが助けを求めている可能性があります。  
ちょっと表へ出て周囲に異常がないか確かめてみましょう。

### 8 交番・駐在所などからの情報を参考に

地域を管轄する交番・駐在所・警察署が発信する事件・事故等の発生状況を参考にして、地域周辺の状況を知っておきましょう。